

分娩進行を判断するアセスメントツールの開発

看護学部 渡邊 竹美

キーワード 助産師、経験知、実践知、分娩**研究概要**

お産の進み方は人それぞれ異なる。出産をサポートする助産師は、産婦ケアの実践を重ねながら、分娩進行を判断する経験知・実践知を習得している。しかし、実践を通して獲得した経験知と分娩進行の関係は可視化されていない。これまでの研究では、助産師が獲得した経験知を可視化し、医学モデルとは異なる助産モデルを提示した。そして、経験知を基盤にした観察指標を作成し、経験知・実践知と分娩進行との関係を可視化し、経験知の有効性を示した。現在進行中の研究では、助産師の経験知・実践知を基盤に作成した観察指標を用いたアセスメントツールの有効性の検証に取り組んでいる。これらの成果は、看護基礎教育、助産基礎教育、新人助産師教育、卒後教育での活用を目指している。さらに、無痛分娩でも活用できるよう洗練している。

アピールポイント

経験知や実践知の可視化は、臨床で働く助産師とともに作り上げた研究成果である。臨床現場での活用・普及を目指して。

応用分野

看護教育、新人助産師教育、卒後教育